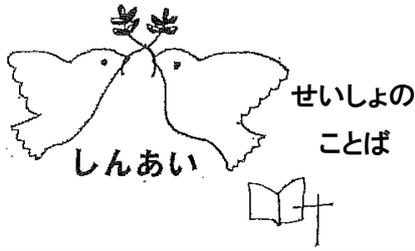


オ リ ー ス 通 信



わたしは弱いときにこそ強いからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章10節

神愛保育園

「 2月を迎えて 」

暦の上ではそろそろ「立春」を迎えます。そして、今年度も、残り2か月になりました。1月下旬に来年度の新入園児の決定がありました。また、幼児クラスは、クラス移動を行い、新しい学年に向けて少しずつ準備を始めています。特に年長のクラスは、就学に向けての生活を見据えながら保育を行っていきます。一人でも顔見知りのお友だちができるようにと、近隣のあゆみ保育園との活動があります。先日は、あゆみ保育園にお正月の行事にお招きを受け、獅子舞や大型かるた大会を行いました。これから、一緒に小学校へも訪問し小学生との交流会に参加したり、公園でも一緒に鬼ごっこなどで遊び交流の時を持ちます。ひまわり組の部屋では、年中とちゅうりっぷ組と一緒に過ごすようになりました。大きな集団になったことで不安なちゅうりっぷ組のお友だちを見かけると、年中のお兄さんお姉さんが「どうしたの?」と優しく声をかけてくれたり、散歩では歩道側にちゅうりっぷ組の子どもたちが来るように気を回している姿も目にしました。年中さんは、「お世話をされる存在」から「お世話をする存在」へと変わり、今までしてもらっていたことを自分たちで気が付き、自然と手を差し伸べている姿に感動しました。

乳児クラスでは、4月からの日常生活で身に付けてきた様々な事が積み重なり、できることがとても多くなりました。2歳児クラスでは、この年明けの時期になって、造形活動や幼児クラスの子どもたちと一緒にリズム活動もできるようになり、2階のお部屋に上がるのももう目前です。1歳児の子どもたちは、様々な事への興味が広がり、集中力をもって長い時間も過ごすことが出来るようになってきました。0歳児の子どもたちは、保育園の生活に慣れ、自分の行きたいところへいけるようになるという歩行の楽しさを知り、自分が安心できる人との関係も広がってきました。健康に気を付けながら、この寒い時期を乗り越え、保育園生活を楽しんでいって欲しいと思っています。

1月には、父母の会の皆さんのおかげで、劇団「風の子」の「たっくんとおりがみおじさん」という作品を観劇しました。0歳児の子どもたちも、声を上げて手をたたき、1歳児、2歳児クラスとなると、幼児クラスのお兄さんお姉さんと一緒に大きな声であいさつをしたり、笑ったりととても楽しい時間を保育園の園児全員で楽しむことができました。ご支援いただきありがとうございます。

神愛保育園 主任 大須賀靖子



観劇会の様子です



乳児クラスの子どもたちはたっくんを怖がっていましたが、幼児クラスの子どもたちは最後にたっくんと握手をしました。



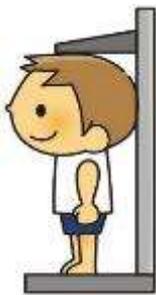
保健だより 2025年 2月



1月は風間でも10度に届かない日もあり、低温が続きました。2月は一年の中で最も寒くなる時期で、寒さ対策が必要となります。12月上旬からのインフルエンザ流行は全国的に猛威をふるい、観測史上最大の流行となりました。園内でもかかったお子さんがいました。まだ流行期が続いているので、引き続き注意が必要です。寒い時期特有の、胃腸炎についても、環境面など気を配っていきます。

毎月の計測

園では、幼児は月の上旬に、乳児は中旬から下旬に身長・体重測定をしています。**身体発育の記録**という黄色の冊子に測定値を記入し、ご家庭に配布しています。はぐくむのウェブ連絡帳で、数値を確認していただくことが出来ることから、黄色の冊子の配布を年度内で終了します。3月に配布されたら返却の必要はなくなるので、ご家庭でお持ちください。来年度からは年度末に、一年間の成長のグラフを配布します。



高熱・胃腸症状の時の水分補給

発熱・胃腸症状のある時一番心配なのは脱水症状です。発熱の場合には熱を下げる効果もあることから、冷ための白湯・麦茶などを摂るようにしてください。胃腸症状の時には、吸収が早いことから、常温のものを摂りましょう。嘔吐の後には注意が必要で、嘔吐後は口渴があるため、一気に沢山飲みたがる傾向があります。嘔気・嘔吐を誘発する場合がありますので、少しずつ与えてください。自分で水分を摂れない状態、また尿量が減った場合には、脱水が進んでいる場合が多いため、受診をお願いします。

【伝染性紅斑（りんご病）とマイコプラズマ肺炎】

11月中旬より始まった伝染性紅斑の流行は12月も続き、過去10年間で最大となりました。園内でもかかったお子さんがいました。顔面・頬部に紅斑がみられ、その状態から「りんご病」と言われています。風邪症状から始まり、軽症で終わることが多く、全身状態が良ければ登園できます。まれにですが、紫斑病・関節炎を起こすことがあるので、急性期は注意する必要があります。

また、同時期に流行が始まったマイコプラズマ肺炎も長く流行が続き、これも過去10年間で最大となりました。風邪症状・発熱から始まり激しい咳が出ます。登園の目安は解熱後、激しい咳が治まってからです。しつこい咳が続くときは受診をお願いします。



きな粉作りをしました！(年長クラス)
【大豆の加工を通しての食育 ⑤】

5月に種まきをして、夏には枝豆の収穫、秋には大豆を収穫することが出来ました。もうすぐ節分なので、収穫した大豆を使用してクッキングをしました。今回のきな粉作りは、大豆を炒ってミルサーにかけて粉碎してきな粉状にするという工程で行いました。炒る時間が長いので大豆のクイズや節分の話と少し大豆からそれてしまったりしたのですが、豆の香ばしいにおいを感じながら、楽しく進めていきました。ミルサーは一人ひとりが体験し、みんな集中してかけていました。周りの子どもたちも、おいしくなるように応援しながら見守ります。

出来たきな粉は、まずはそのまま食べてみました。「いいにおい！」「あったかいね。」などいろいろな声がありその後砂糖を混ぜて、ミルクもちに絡めて食べると「やっぱり甘い方がもっとおいしい。」と全員が同意見でした。

次は大豆から豆腐を作ってみようとおみんなで話しました。今後の活動報告もお楽しみに♪



☆2・3月は年長のリクエストメニューを取り入れています。写真を掲示しますので、是非ご覧ください☆



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



暦の上では立春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続きそうですね。深川北子ども家庭支援センターと共催で『凧あげ』を行いました。この日は程よく風も吹き、穏やかな日差しの中 25組の親子が参加をしてくれました。蛇のクルクル凧とビニールお絵描き凧を準備し、凧を持って公園内を一生懸命に走る姿をたくさん見る事が出来ました。今後もみずべとの共催でのプログラムを考え、親子で楽しんだり、園児との交流が持てる機会を増やしていけたらと思っています。



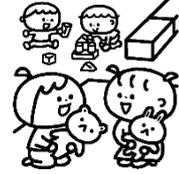
父母会主催の観劇会「劇団風の子 たっくんと折り紙おじさん」にひだまり親子が参加しました。



たんぽぽ組が散歩帰りに立ち寄ってくれて利用者親子と交流を持ちました。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2025年1月10日（金） 天気くもりのち晴れ つくし組（0歳児）

「ただいま 砂の研究中…」

昨日の砂場では、砂を握りしめたり周りに向かって投げたりするなどダイナミックな遊び方をしていた A。今日は、中和公園に行き砂場で遊んで見た。すると、昨日とは一転してじっくり座って遊び始めた。保育者が様子を見て見ると、手の平を下にしてそのまま手を砂山に突っ込んでいた。どうするのかと引き続き見守っていると、ゆっくりそーっと、手の甲に乗った砂を落とさないように慎重に手を引き出していた。手の甲に砂の山が出来ることに関心を持ったようで、その後もそのまま同じ行動を繰り返し真剣な眼差しで集中していた。サラサラだったり、湿っていたりするなどタイミングによって温度や感触の違いがある砂。毎日の繰り返す遊びの中でも、その日その日の違いや新たな発見をしている子どもの表情は、小さな科学者のようであった。そのような探求心を伸ばしていけるような環境や保育を提供していきたいと改めて感じた。

この日誌はつくし組で砂場あそびに出かけた時のものです。

つくし組の子どもたちは、座ることやつかまり立ちがきるようになったことで、目の高さが変わり見える世界が変わることで、視野が広がり世界も広がっています。そのことに加えてハイハイや伝い歩きなどの移動手段の獲得で願ったことが叶う経験をもたせてくれます。そこで生まれてくるのが探索活動で、つくし組の子どもたちは五感を使って舐めたり、臭いをかいだり、触ったりして身の回りのものを確かめようとします。A は昨日の砂の手触りと今日の感触が違うと感じたのかもしれないですね。昨日のダイナミックな姿とは一変して、座ってじっくりと手の甲に砂を乗せるなど感触を確かめていたので何か発見があったのでしょうか。「触ってみたい」「不思議だな」という興味・関心に動かされて身近なものへと関わりをもつことがその後の知的発達の土台をつくるので子どもたちの思いに気が付き、姿に合わせて、探求心をくすぐるような環境を提供していきたいと思います。探索活動が盛んになるに従い目が離せない日々が続きますが、保育園でも安全に配慮しながら“小さな科学者さん”と共に発見を楽しんでいきたいと思います。

2025年1月14日(火)

天気 はれ

ちゅうりっぷ組(3歳児)

「わたしのうわぎ!!!」

散歩先で「暑いから脱ぐ」と上着を脱いでいたちゅうりっぷ組子どもたち。帰る時間になり「そろそろ上着着ようかなー」と保育者が声を掛けた。すぐに子どもたちは上着を着ていった。AとBは親切心から置いてある上着をみんなに渡してくれていた。AがCの上着を渡そうとしたが「自分で!!」「自分で取るから置いといて!!」とCは大きな声を出した。Aは黙って上着を渡し続け、Cは何度も「自分で!!」と怒っている様子であった。保育者が間に入りすぐに解決したが、Aは良かれと思ってやったことでも相手のCにとっては迷惑だったという場面であった。Aにとっては相手に理解してもらえなかったという出来事であった。今後、このような場面が増えていくため、このことを子どもたちにわかりやすく伝えていきたい。

3歳児ちゅうりっぷ組は、もう少しでひまわり組さんへ進級です。夏のころまでは、まだまだ乳児の時の姿を行ったり来たりしている様子がありました。それは、子どもたちの中でも「大きくなった」という自覚はあったものの、まだまだ、実際の行動や言葉には結びつかず、大人を困らせたり、お友だちとトラブルになる姿がありました。それは、自分の思い通りにならないときは、大声を出す、無理矢理に取ってしまうなどの姿です。しかし、その後、自分でできることがどんどん増えてくると、自分でやろうとしたことにこだわりを感じるほど自分でやり通そうとする反抗的な姿があります。そして、ちょっとしたきっかけの対応で積極的でご機嫌になるのもこの時期なのです。Aは、そのような時期を終え、人の求めていることやお手伝いをする気持ちが育っているのでしょう。反対に、Cはどこまでも自分でしようとして、大人やお友だちのお手伝いを拒むという3歳児発達真っ只中を歩んでいるようですね。ちゅうりっぷ組は、毎日の積み重ねの中で、お友だちとのかかわりを通して「物事の折り合い」や「自制心」「人の思いを知る」などたくさん身に着けていきます。そして、日誌にあるように相手に理解してもらえなかったということはまだまだ幼児期にはたくさん遭遇する出来事です。そのような毎日の積み重ねや保育者の仲介を通して、お友だちとのコミュニケーションは楽しいということをも身に着けていってほしいと思います。

4月になれば、Aも怒っているCに対して何かしら言葉を返すことができるようになるでしょう。そして、Cは、Aのようにお手伝いなどを自分よりも年下の子どもに行き渡らせる優しい姿がみられるようになるでしょう。ひまわり組での成長がとても楽しみになってきましたね。



